

日本語 やさしく具体的に

四日市・笹川小 外国人に教える研修会



買い物をテーマに外国人
市民と会話をする参加者
たち＝四日市市笹川小で

外国人に日本語を教えるボランティアの研修会が十二日、四日市市笹川小学校で開かれた。市内の外国人人口が増加する中、地域で開催されている日本語教室で活躍する人材を育成しようとして、市が本年度初めて実施。全八回のうち七回目の講座があり、参加者は外国人市民との会話を通して学んだことを実践した。

(片山さゆみ)

外国人の比率が高い笹川地区の市民など十四人が参加。五班に分かれ、防災、買い物、ごみ出し、病院の各テーマで会話の内容を考えた。外国人市民が各班に一人二人加わった。買い物のグループは、チラシやポイントカードなど

ボランティア育成

を示し、店ごとの便利なサービスやお買い得な情報について話した。「割引」や「まとめ買い」といった用語は理解しづらいため、具体例を出したり、「やさしい日本語」に言い換えてたりして説明した。アドバイザーを務めた愛知淑徳大学の鈴木崇夫助教は「質問するだけでなく、自分の話を交えながら双方向で会話することが重要」と助言した。

同市楠町の橋本喜美代さんは「相手が日本語をどの程度理解できているか分からず、伝えるのに苦労した。普段生活している中にも難しい言葉が多くあると分かったので、かみくだいて説明できるようにしたい」と話していた。研修は文化庁の「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の補助を受け、公益財団法人「三重県国際交流財団」が運営を担った。